校種：高等学校　　対象学年：２年　　教科：ホームルーム活動

人権課題の解決に向けて、自分の役割を考えよう！

**１　内　容　（２）適応と成長及び健康安全**

**ウ　社会生活における役割の自覚と自己責任**

**２　教材名　　アニメ「めぐみ」（内閣官房拉致問題対策本部）**

**３　本時の目標**

|  |  |
| --- | --- |
| 知識的側面 | ・他人事意識や無理解・無関心が人権問題の解決の妨げとなっていることに気付く。  ・拉致問題は北朝鮮当局による人権侵害であり、北朝鮮の国民や朝鮮半島にルーツのある在日の人たちには何の罪も責任もないことを理解する。 |
| 価値的・態度的  側面 | ・アニメ「めぐみ」の視聴を通して、拉致被害者や家族の人たちの心の痛みや思いに共感する。  ・「拉致問題は、自分には関係ない。」といった他人事意識や無関心となっている自分がいないかをふり返らせ、自らの問題ととらえ行動していこうとする態度を身に付ける。 |
| 技能的側面 | ・拉致問題を進展させていくために、自分たちにできることを考えることができる。 |

**４　展開例**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 主な学習活動 | 予想される生徒の反応 | 教師の支援・指導 |
| つかむ | １　拉致問題について、これまでに学んできたことをふり返る。 | ・アニメを見た  ・重大な人権問題  ・まだ解決していない | ○　小中学校での社会科学習等を想起させながら、未だに拉致問題が解決していないことを確認する。  ○　拉致問題は人権課題の１つであることを伝え、その解決に向けての自分の役割について考えていくことを伝える。 |
| ２　アニメ「めぐみ」を視聴する。（約２５分） | ・自分たちには何もできないんじゃないかな…  ・早く解決しないと… | ○　未だに帰国できないでいる拉致被害者や家族の人たちの心の痛みや思いにしっかりと共感させる。  ○　一方で、あくまで北朝鮮当局の犯行で、北朝鮮の一般市民や在日コリアンには何の罪も無いことをしっかりと理解させる。 |
| 考える | ３　両親が街頭で救出を呼びかける活動を行っている時、関心を示さず通り過ぎる人たちの気持ちを考える。 | ・自分には関係ない  ・よくわからないけど、北朝鮮のことだからどうしようもない  ・そんなことしても無駄だろう | ○　被害者や被害者家族の心の痛みを共感的に受け止める人権感覚が問われていることを理解させる。  ○　率直な意見や感想を引き出しながら、人権課題に対する他人事意識や無理解、無関心等が、解決を阻む要因となっていることに気付かせる。  ○　自分には関係ないといった意識が自分にもないかをふり返らせ、自らの問題ととらえ行動していくことの大切さを理解させたい。 |
| まとめる | ４　拉致問題を進展させていくために、自分たちにできることを考える。 | ・互いの文化を理解する  ・人権が尊重される社会をつくるために、身の回りの差別を許さない  ・おかしいことはおかしいと言う | ○　多くの人たちが拉致問題に関心をもつことで解決に向けた世論を高めることの大切さを理解させ、自分たちにできることを考えさせる。 |